

<p>集中講義 実践が楽しくなる実践記録</p>	<p>2024年度回数 1回</p>	<p>担当者 山本翔太・竹澤清</p>
<p><b>授業内容・テーマ</b></p> <p>日々の実践で関わる人たちの理解をもっと深めたい。自分自身の実践がこれでいいのかふり返り、次への方向性を考えたい。そのような思いを実現していくために、実践記録を書いてみるという事は一つの大切な方法です。実践記録はただ「客観的事実を正確に書き写したもの」ではありません。そこには目の前にいる人の多様な姿や思い、そして、実践に込められた私たちのねがいが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは相手の思いを発見することができると同時に、「自分たちがなぜこの実践に取り組んだのか」という自分たちの意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることに繋がる重要なプロセスなのです。しかし、文章を書くことを苦手と感じる人もいるかもしれません。自分の中にある思いを伝える言葉がなかなか出てこない人もいるかもしれません。まずは、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を見つけていき、それらを言葉にしてみます。その上で、どのように実践記録としてまとめていくのか、様々な事例なども通して一緒に学んでいきたいと思えます。</p>		
<p><b>授業の流れ</b></p> <p>7月28日（日）12:45～16:45</p> <p>講義1 山本翔太（人間発達研究所運営委員） 「実践記録はなぜ大切なのだろうか？」</p> <p>講義2 竹澤清（元愛知県聾学校 あいち障害者センター） 「記録を問うことは、実践を問うこと——実践につなぐ記録——」</p> <p>ワーク 進行 山本翔太（人間発達研究所運営委員）</p> <p>振り返り (適宜休憩をはさみます)</p>		

コース名	2024年度回数	担当者
実践が楽しくなる「実践記録」コース	4回と個別添削	山本翔太
<b>授業内容・テーマ</b> <p>実践記録を書くとてもいいことがあります。たとえば、日々向き合っている子どもやなかまの理解をもっと深めていくこと。また、実践に込められた自らの意図や目的を見つめなおし、次の実践への方向性をさだめることなどもできます。しかし、実践記録を書くことは良い事だろうとわかっていても、「何」を書いたらいいのか、「どう」書いたらいいのか、第一歩を踏み出すことにためらってしまうかもしれません。まずは、実践の一コマを言語化して試みることから始め、実践記録を書く上で必要となる「見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていきます。そして、それをどのように実践記録としてまとめていけばいいのか考えていきます。実践の多様な見方・考え方を発見したい人、表現する自分なりの“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、一緒に学びましょう。10年後に読み返しても「生き生きとした姿が目浮かぶ」ような記録を書くことをめざします。</p>		
<b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b> <p><b>1回目(7/28)：集中講義</b> 前頁参照</p> <p><b>2回目(10/6)：実践記録を書こうとしてみる</b> 実践場面の切り取り方や行動のとらえ方・意味づけ方を考えてみる。</p> <p><b>3回目(11/17)：エピソード実践記録を書いてみる</b> 書いてみたエピソード記録を共有し、いきいきした姿が思い浮かぶか体験する。 (伝わっているかな?)</p> <p><b>4回目：個別添削</b></p> <p><b>5回目(2/9)：みんなで共有</b> 実践記録を読み合う 記述の仕方、表現方法について感想を出し合う 実践記録や実践の面白さについて語り合う</p>		